

【別紙2】

〈授業改善推進プラン 令和7年度第2学年 国語科〉

<p>1. 『『わかる』から『できる』を体感する授業』を実現する上で解決すべき課題</p> <ul style="list-style-type: none">・村学力調査の領域別正答率では、「話すこと・聞くこと」の目標値 68.3%に対して、校内正答率 50%だった。・村学力調査の問題内容では、「漢字を書く」の目標値 56.7%に対して、校内正答率 50%だった・	
<p>2. 課題改善に向けた取組状況</p> <p>(1) 令和5年度授業改善推進プラン記載内容</p> <ul style="list-style-type: none">・「話すこと・聞くこと」については、令和5年度に当該の授業改善推進プランが作成されていない。・令和5年度1学期の段階では、第5学年までの既習漢字の定着率の低さが見られた。また、夏季休業明けには第6学年1学期学習の漢字も忘れてしまっていることが予想される。漢字の確実な定着に課題があると考えられる。 <p>(2) 今年度実践している『『わかる』から『できる』を体感する授業』を実現するための工夫等</p> <ul style="list-style-type: none">・話し合い活動を多く取り入れ、他者の意見をメモすること、自分の意見を言葉にすることを意識させている。・漢字練習プリントの配布やわからない漢字は調べさせ、漢字にたくさん触れさせている。漢字を調べる際、国語辞典で調べさせる。	
<p>3. 課題の改善に向けた方策と検証方法</p> <p>＜方策＞</p> <ul style="list-style-type: none">①話し合いのポイントを考えながら実践させる。②週1回の漢字小テスト前にプリント学習をさせる。	<p>＜検証方法＞</p> <ul style="list-style-type: none">①提出物、聞き取りテスト②漢字の小テスト、定期テスト
<p>4. 検証結果(成果と課題)</p> <p>＜成果＞</p> <ul style="list-style-type: none">①話し合いの一つである討論のポイントが理解できた。②漢字ドリルには取り組むようになった。 <p>＜課題＞</p> <ul style="list-style-type: none">①話し合い中に論点がずれてしまうことがあるのが課題である。②熟語の意味が分かっていなく正しく漢字を使えないことが課題である。	<p>5. 令和8年度(次学年)の学習指導において特に留意すべき事項</p> <ul style="list-style-type: none">・辞書を使い漢字を調べられるよう指導する。・作文をくり返し書く機会を設定し、良い文章を書けるようにする。
<p>6. 令和8年度(次学年)末に期待する生徒の姿</p> <p>国語に興味をもち、言葉を大切に使える生徒。</p> <p>積極的に読書をして様々なことを知識として蓄えていける生徒。</p>	

【別紙2】

〈授業改善推進プラン 令和7年度第2学年 社会科〉

<p>1. 『わかる』から『できる』を体感する授業を実現する上で解決すべき課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・知識を活用した表現力の向上 <p>例1 全国平均より上回っている。ただし、「世界の諸地域」の問題では全国平均を下回り、「飛鳥時代から平安時代」の問題ではとても低い正答率である。今後の課題改善の取組が必要である。（令和7年度 小笠原村学力調査の結果 参照）</p> <p>例2 令和7年度本校教科アンケート 「この教科の学習内容について、現在どの程度理解をしていますか」について、「あてはまる」「だいたいあてはまる」100%（1名中 1名）</p>			
<p>2. 課題改善に向けた取組状況</p> <p>(1) 令和5年度授業改善推進プラン記載内容</p> <p>令和5年5月実施の村学力調査では、「文章を書く」内容の問題がいずれも正答率0%という結果だった。したがって、文章を書くことに課題があると考えられる。4月実施の全国学力調査でも、同様の結果となった。⇒引き続き令和7年度の授業改善に活かしていく。</p> <p>(2) 今年度実践している『わかる』から『できる』を体感する授業を実現するための工夫等</p> <p>今年度は、社会科として重要視している、多面的・多角的な深い学びを得られる授業構成により、表現力（文章構成など）を伸ばさせていく。（この表現力を『できる』力と定義する） 以下、方策に記す。【以上、特に歴史分野】</p>			
<p>3. 課題の改善に向けた方策と検証方法</p> <table border="0" style="width: 100%;"> <tr> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> <p><方策></p> <p>①小單元ごとに表現力を育成するパフォーマンス課題を設定する。また都度適切なサポートを実施する。</p> <p>②後期授業評価アンケートを実施する。</p> <p>③上記（2）の工夫を実践する。</p> </td> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> <p><検証方法></p> <p>①課題の評価（第二観点 A～C以下）について、全課題・全生徒の評価平均の結果分析（目標値は平均値B以上） 【歴史分野】</p> <p>②・③に共通して 後期授業評価アンケートの結果分析（目標値は、理解度A【あてはまる】 B【だいたいあてはまる】100%）</p> </td> </tr> </table>		<p><方策></p> <p>①小單元ごとに表現力を育成するパフォーマンス課題を設定する。また都度適切なサポートを実施する。</p> <p>②後期授業評価アンケートを実施する。</p> <p>③上記（2）の工夫を実践する。</p>	<p><検証方法></p> <p>①課題の評価（第二観点 A～C以下）について、全課題・全生徒の評価平均の結果分析（目標値は平均値B以上） 【歴史分野】</p> <p>②・③に共通して 後期授業評価アンケートの結果分析（目標値は、理解度A【あてはまる】 B【だいたいあてはまる】100%）</p>
<p><方策></p> <p>①小單元ごとに表現力を育成するパフォーマンス課題を設定する。また都度適切なサポートを実施する。</p> <p>②後期授業評価アンケートを実施する。</p> <p>③上記（2）の工夫を実践する。</p>	<p><検証方法></p> <p>①課題の評価（第二観点 A～C以下）について、全課題・全生徒の評価平均の結果分析（目標値は平均値B以上） 【歴史分野】</p> <p>②・③に共通して 後期授業評価アンケートの結果分析（目標値は、理解度A【あてはまる】 B【だいたいあてはまる】100%）</p>		
<p>4. 検証結果(成果と課題)</p> <p>成果 ①目標値を上回ることができた。</p> <p>課題 ②理解度B50%・理解度C50% 社会的事象における理解度の向上が課題</p>	<p>5. 令和8年度(次学年)の学習指導において特に留意すべき事項</p> <p>欠課・欠席時における授業内容を補う時間の確保。</p>		
<p>6. 令和8年度(次学年)末に期待する生徒の姿</p> <p>社会科への関心がさらに高まり、自ら社会的事象に興味を抱くことで、地域の課題に目が向けられるようになっている生徒。</p>			

【別紙2】

〈授業改善推進プラン 令和7年度第2学年 数学科〉

<p>1. 『わかる』から『できる』を体感する授業を実現する上で解決すべき課題</p> <p>2年生の数学を見ると、全国平均大きく上回っていて良好な状況である。データの活用の領域については、全国平均を下回っており、課題である。</p>	
<p>2. 課題改善に向けた取組状況</p> <p>(1) 令和4年度授業改善推進プラン記載内容</p> <ul style="list-style-type: none">令和5年5月実施の村学力調査では、「整数のなかま分け」「単位量あたりの大きさ」「多角形の内角の和の求め方を説明する」内容の問題がいずれも正答率0%という結果だった。第6学年以降の算数の学習においてもつながる内容であるため、確実に定着させることが必要となる。 <p>(2) 今年度実践している『わかる』から『できる』を体感する授業を実現するための工夫等</p> <ul style="list-style-type: none">毎単元に自力解決で行う問題演習の前に、クイズ形式での理解を促す計算トレーニング。「連立方程式」の単元において、ICT機器を使用した教え合い活動。	
<p>3. 課題の改善に向けた方策と検証方法</p> <p><方策></p> <p>①過去の既習内容の苦手意識を取り除き、間違えたことを隠さず確認していくことで、主体的に学習に取り組む態度を育成する。</p> <p>②自分の考えをまとめ、クラスメイトに共有することで深く理解する。</p>	<p><検証方法></p> <p>①小テスト 実施前と後に行い、定着度を確認する。</p> <p>②ICT機器を用いた発表 発表の際に注意するポイントの説明も行うように設定する。</p>
<p>4. 検証結果(成果と課題)</p> <p><成果>スライドなどを使用し間違いやすいところや考えを説明できた。</p> <p><課題>問題の意図の読み間違いがたまにあることが課題である。</p>	<p>5. 令和8年度(次学年)の学習指導において特に留意すべき事項</p> <p>受検(受験)などの文章題で読み取る量が増えるため、読み取りの問題を増やしていく。</p>
<p>6. 令和8年度(次学年)末に期待する生徒の姿</p> <p>問題の意図を正しく理解し、問題解決に使用できる生徒。</p>	

【別紙2】

〈授業改善推進プラン 令和7年度第2学年 理科〉

1. 『わかる』から『できる』を体感する授業を実現する上で解決すべき課題

令和7年度村学力調査結果より、次のことが挙げられる。

- ・「火山」「地層」分野全体での正答率は40%を下回った。基礎知識の定着が課題である。
- ・「光の性質」分野全体での正答率は40%を下回った。作図をして解答する問いに関しては、課題が見られる。

2. 課題改善に向けた取組状況

(1) 令和5年度授業改善推進プラン記載内容

- ・令和5年度の学力調査の結果は、校内平均正答率が88.3%で、全国平均の66.1%を大きく上回る状況である。しかしながら、「けんび鏡の使い方」の短答問題(校内平均正答率0% 全国平均正答率26.1%)、「植物の発芽と成長」の選択問題(校内平均正答率0% 全国平均正答率16.0%)に課題が見られた。

(2) 今年度実践している『わかる』から『できる』を体感する授業を実現するための工夫等

- ・地球分野は中学校1年生で学習しているので、個々の能力に応じた復習問題を補充する。中学校2年生で学習する地球分野においても、タブレット端末を活用しモデル実験や図、映像資料を使い、主体的に考える学習活動を充実させる。
- ・小テストの活用や授業内容をこまめに振り返ることで「知識・技能」の定着を図る。

3. 課題の改善に向けた方策と検証方法

<方策>

- ①個々の能力に応じた復習問題を補充するためにタブレット端末を活用した学習活動を充実させる。
- ②小テストの活用や授業内容をこまめに振り返ることで「知識・技能」を定着させる。

<検証方法>

- ①ICTを用いた発表の評価と年間2回の授業評価アンケートの実施内容を分析する。
- ②年間15回程度の小テストと年間4回の定期考査を実施し、内容を分析する。

4. 検証結果(成果と課題)

<成果>

- ・復習の機会をより多く設けたことで、自分の考えをアウトプットできる生徒が増えた。
- ・小テストや定期考査の結果から、文章読解力を要する問題の正答率を高めることができた。

<課題>

実験をモデルにした文章題を読み取る力はあるが、基礎知識やの百分率の計算でミスをする生徒が見られた。

5. 令和8年度(次学年)の学習指導において特に留意すべき事項

小テストの予想問題を活用し、定期的に家庭学習の機会を設定する。また、基礎知識の定着を図るためにタブレットを用いて授業の振り返りを行う。

6. 令和8年度(次学年)末に期待する生徒の姿

自然事物・事象に興味をもち、主体的に学習に取り組むことができる生徒。

【別紙2】

〈授業改善推進プラン 令和7年度第2学年 音楽科〉

1. 『わかる』から『できる』を体感する授業を実現する上で解決すべき課題

授業評価アンケートでは授業に対する理解に関する項目のみ「B」であり、他は全て「A」という結果となった。音楽活動への取り組みは意欲的であり、歌唱技能は高いものをもっている。しかし自ら立てた学習計画に基づいた取り組みについては課題がみられ、器楽の練習方法や鑑賞の記述が不十分であることが多い。それぞれの活動に対し、丁寧かつ粘り強く取り組むための方策が必要である。

2. 課題改善に向けた取組状況

(1) 令和5年度授業改善推進プラン記載内容

- ・「基礎的な学力」の定着については改善が見られ、1学期の定期考査の点数も良好である。

(2) 今年度実践している『わかる』から『できる』を体感する授業を実現するための工夫等

- ・1の課題で述べた通り、計画的に学習を進めることに課題があり、そのことによって、本来発揮できる能力を十分に生かせないことが多い。学習目標を明確にして、それに向けた活動を支援していく。特に「～分までに」「～を」「～の回数行う」といったように可能な限り活動に関する項目を数値化し、時間内にきちんと達成する力を育成していく。

3. 課題の改善に向けた方策と検証方法

<方策>

- ①毎時の課題を明確にし、時間内に達成できるように促す。
- ②学習資料の充実

<検証方法>

- ①ワークシート、授業展開の工夫
- ②題材に適した資料を複数配布し、主体的に調べながら学習に取り組めるか確認する。

4. 検証結果(成果と課題)

<成果>

- ・徐々にではあるが、活動時間を意識した取り組みができるようになってきている。

<課題>

- ・記述課題の取り組みについては依然として課題が残る。

5. 令和8年度(次学年)の学習指導において特に留意すべき事項

- ・表現、鑑賞の両面において短時間かつ量的なトレーニングを徹底して行うことにより、技能の定着化を図る必要がある。

6. 令和8年度(次学年)末に期待する生徒の姿

粘り強く課題に取り組み、自分に自信をもって音楽表現ができる生徒。

〈授業改善推進プラン 令和7年度第2学年 美術科〉

<p>1. 『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現する上で解決すべき課題</p> <p>課題に取り組むという意識が低く、設定された活動を能動的に楽しんでおり、意欲は自らの興味・関心に左右される傾向が強いため、自ら主題を定めてゴールを設定したり逆算した過程を組み立てたりする経験を積み、課題解決に主体的に取り組む姿勢や自己調整力を身に付けることが課題。</p>			
<p>2. 課題改善に向けた取組状況</p> <p>(1) 令和5年度授業改善推進プラン記載内容</p> <p>【課題】</p> <p>授業アンケートの結果より、授業への興味・関心は高いが、学習内容の確実な定着については、授業者と児童の認識に乖離があるため、改善を図る必要がある。</p> <p>【改善策】</p> <p>表現活動を楽しむことだけに注力する傾向があるため、毎回の振り返りの時間が充実するように声かけを行い、「何を発見したか?」、「どこをどのように工夫したか?」「次はどうしたいか?」などを一つ一つ問いかけ、考えながら書く時間をとっている。</p> <p>【評価】</p> <p>ただ活動を楽しむだけで終わらずに、活動を振り返って自己評価ができるようになってきている本時の振り返りと自己評価を次回につなげたり前回からつなげたりする意識が具体的な行動や発言としては表出していないため、授業の導入とまとめの時間における声かけやワークシートの工夫など具体的な支援が必要である。</p> <p>(2) 今年度実践している『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現するための工夫等</p> <p>作品制作の中間発表とグループでの鑑賞活動を行い、協働的な学びの場を設けて互いの作品のブラッシュアップの機会を増やしている。</p> <p>題材ごとの導入を丁寧に行い、スモールステップの設定と毎時の目標を細分化している。また、振り返りワークシートを用いて目標の達成に対する自己評価を行い、次回の自分に向けての覚え書きを残すなど、主体的に取り組みを継続できるようフィードバックも充実させながらルーティンを作っている。</p>			
<p>3. 課題の改善に向けた方策と検証方法</p> <table border="0" style="width: 100%;"> <tr> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> <p>＜方策＞</p> <p>①年間2回授業評価アンケートを実施する。</p> <p>②授業ごとの振り返りや題材ごとのまとめの活動を充実させる。</p> </td> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> <p>＜検証方法＞</p> <p>①年間2回の授業評価アンケートの実施内容分析。</p> <p>②振り返りワークシートのフィードバックを行い、自己評価を継続して比較する。</p> </td> </tr> </table>		<p>＜方策＞</p> <p>①年間2回授業評価アンケートを実施する。</p> <p>②授業ごとの振り返りや題材ごとのまとめの活動を充実させる。</p>	<p>＜検証方法＞</p> <p>①年間2回の授業評価アンケートの実施内容分析。</p> <p>②振り返りワークシートのフィードバックを行い、自己評価を継続して比較する。</p>
<p>＜方策＞</p> <p>①年間2回授業評価アンケートを実施する。</p> <p>②授業ごとの振り返りや題材ごとのまとめの活動を充実させる。</p>	<p>＜検証方法＞</p> <p>①年間2回の授業評価アンケートの実施内容分析。</p> <p>②振り返りワークシートのフィードバックを行い、自己評価を継続して比較する。</p>		
<p>4. 検証結果(成果と課題)</p> <p>＜成果＞</p> <p>振り返りと自己評価の継続によって、事後に取組の中で不十分だった部分や改善点に気付くことができるようになった。</p> <p>＜課題＞</p> <p>振り返りや自己評価で考えながら記述したことを次の場面で活かしきれないことが多く、同様の反省を繰り返す様子が見られることが課題。</p>	<p>5. 令和8年度(次学年)の学習指導において特に留意すべき事項</p> <p>導入からゴールまでのステップが思い描けるように工程を可視化することを継続する。</p> <p>事後に振り返りや自己評価を実施するだけでなく、毎回導入時に前回の振り返りと自己評価を自ら確認して、反省事項を意識しながら取り組めるようにする習慣をつける。</p>		
<p>6. 令和7年度(次学年)末に期待する生徒の姿</p> <p>自身の取組をメタ認知しながら、自己調整力や課題解決力を主体的に高めていくことができる生徒。</p>			

〈授業改善推進プラン 令和7年度第2学年 保健体育科〉

<p>1. 『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現する上で解決すべき課題</p> <p>授業評価アンケートの結果より、「どんな力を身に付けたいか」という質問について、「運動の方法やその効果についての正しい知識」という回答が出ている。新体力テストの結果で全国平均を下回る種目が5つあることから、新体力テストのテスト種目と授業とを結びつけながら生涯にわたって豊かなスポーツライフを実現する資質・能力を育成していくことが課題である。</p>	
<p>2. 課題改善に向けた取組状況</p> <p>(1) 令和5年度授業改善推進プラン記載内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新体力テストでは、全国平均を下回る種目が散見される。体力の向上を図るとともに、運動習慣の確立が必要である。 →単元に応じた補強運動を設定し、年間を通して体力の向上に努めている。 ・授業の観察から、運動課題への不安が強いと取り組むまでに時間がかかる。苦手な児童ほど試行回数が減り、成長速度が遅れてしまうことが課題である。 →個々の体力や技能に応じた課題・ルールを設定し、児童が自己の目標をもって取り組むことができるようにしている。運動の特性に応じた楽しさを味わい、実践する意欲を育てている。 <p>(2) 今年度実践している「『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現するための工夫等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・技能の習得に繋がる補強運動を設定し、単元に応じた技能の習得を目指す。 ・学ぶ内容の全体像や授業の流れ、技能の習得方法を示す際に、言葉だけではなく視覚的な手がかりやICT機器を活用する。 	
<p>3. 課題の改善に向けた方策と検証方法</p> <p>＜方策＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ①年間2回の授業評価アンケートの実施をする。 ②単元の全体像や学ぶ内容の重要事項やポイント、前時との関係性がわかるように板書やワークシート、スライドを活用する。 	<p>＜検証方法＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ①年間2回の授業評価アンケートの実施内容分析 ②スプレッドシートで授業内容の理解度を確認・分析。
<p>4. 検証結果(成果と課題)</p> <p>＜成果＞</p> <p>技能習得に直結する補強運動を目的別に提示し、生徒自らが課題に合わせて選択する場を設けたことで、「自ら選ぶ練習」への転換が図られ、主体的な取り組みが顕著に見られた。</p> <p>＜課題＞</p> <p>『できた』を、いつでもできる『身についた』状態へ定着させる。</p>	<p>5. 令和8年度(次学年)の学習指導において特に留意すべき事項</p> <p>自分の動きを動画等で確認することで、「イメージ」と「実際の動き」の一致を図る。</p>
<p>6. 令和8年度(次学年)末に期待する生徒の姿</p> <p>「一回の質」や「感覚の言語化」にこだわりをもって授業に取り組める生徒。</p>	

【別紙2】

〈授業改善推進プラン 令和7年度第2学年 技術科〉

<p>1. 『わかる』から『できる』を体感する授業を実現する上で解決すべき課題</p> <ul style="list-style-type: none">・学習における課題設定と、振り返りを習慣化させることが求められる。・実践的・体験的な学習活動では、全ての生徒が意欲的に取り組んでいるが、知識の観点で差が出てくる生徒がいる。	
<p>2. 課題改善に向けた取組状況</p> <p>(1) 令和5年度授業改善推進プラン記載内容(別学年の中2内容記載)</p> <ul style="list-style-type: none">・学習振り返りシートを用意し、毎時間の授業の振り返りを学校でできるようにする。・グループワークを取り入れ、学び合いを活発化させることで知識・技能の習熟を図る。 <p>(2) 今年度実践している『わかる』から『できる』を体感する授業を実現するための工夫等</p> <ul style="list-style-type: none">・学習振り返りシートを用意し、毎時間の授業の振り返りに教師がコメントを返し、授業の理解度を深める。・事前学習プリントやレポート課題を通して、苦手である知識の定着を図る。	
<p>3. 課題の改善に向けた方策と検証方法</p> <p><方策></p> <p>① 生徒の振り返りに合わせて、教師が意図的に知識の定着を図れるようなコメントを記入する。</p> <p>② レポートとその解説を通して、知識の定着を図る。</p>	<p><検証方法></p> <p>①課題, 考査, 授業評価アンケート</p> <p>②課題, 考査, 授業評価アンケート</p>
<p>4. 検証結果(成果と課題)</p> <p><成果></p> <ul style="list-style-type: none">・振り返りシートを活用し、フィードバックによる支援を行ったことにより、特に調べ学習や作業において、自主的に活動ができるようになった。 <p><課題></p> <ul style="list-style-type: none">・技術分野におけるキーワード(技術的な根拠)を踏まえた上で、既知の知識と検索した知識を融合させて説明する力に課題がある。	<p>5. 令和8年度(次学年)の学習指導において特に留意すべき事項</p> <ul style="list-style-type: none">・振り返りシートのフィードバックに、教師が意図的に技術分野のキーワードを活用し、本時で学んだことと技術の根拠が結び付けられるような言葉掛けを行い、より生徒の表現力を高められるよう、支援を継続する。また、AIを活用したレポート課題を設定し、思考・判断・表現力の向上を目指す。
<p>6. 令和8年度(次学年)末に期待する生徒の姿</p> <p>使用条件や使用目的を踏まえ、自分の考えや思いを、技術的な根拠を基に相手に伝えることができる生徒。</p>	

【別紙2】

〈授業改善推進プラン 令和7年度第2学年 家庭科〉

<p>1. 『わかる』から『できる』を体感する授業』を実現する上で解決すべき課題</p> <ul style="list-style-type: none">・題材に対する興味関心に差があり、消極的になってしまうこと。・既習事項を活用し、自身の生活と結び付けて考えながら具体的に表現すること。	
<p>2. 課題改善に向けた取組状況</p> <p>(1) 令和5年度授業改善推進プラン記載内容</p> <p>「既習事項をもとに自身の意見や考えをまとめ、相手に分かりやすく伝えること」が課題として挙げられている。その授業改善策として実習や実践的な活動の機会を増やし、学習をまとめることで自身の考えを深めることができたようである。</p> <p>(2) 今年度実践している『わかる』から『できる』を体感する授業』を実現するための工夫等</p> <ul style="list-style-type: none">・実習や実験などの実践的で体験的な活動の機会や ICT 機器を活用しながら視覚教材を増やし、興味関心を高めている。・実習や製作の記録課題や毎授業の振り返りを用いて、自分の考えや意見を具体的に表現する機会を増やしている。	
<p>3. 課題の改善に向けた方策と検証方法</p> <p><方策></p> <ul style="list-style-type: none">①体験的な活動や視覚教材を活用しながら、興味関心を高める。②既習事項の活用を意識した声掛けと個に応じた適切な支援。	<p><検証方法></p> <ul style="list-style-type: none">①授業の振り返り、課題や実習記録、年間3回の定期考査、年間2回の授業評価アンケート②ワークシート、授業の振り返り、授業内での課題や実習記録、年間3回の定期考査、年間2回の授業評価アンケート
<p>4. 検証結果(成果と課題)</p> <p><成果></p> <ul style="list-style-type: none">①どの題材においても自身の生活を振り返りながら発言したり、意見をまとめたりすることができた。(授業観察、課題、振り返りシート等より)②既習事項を活用しながら振り返り、実生活と結び付けて考える記述が多く見られた。(定期考査、課題、振り返りシート等より) <p><課題></p> <p>よりよい生活の実現に向けて工夫し考え、さらに主体的に取り組むこと。</p>	<p>5. 令和8年度(次学年)の学習指導において特に留意すべき事項</p> <ul style="list-style-type: none">・既習事項を活用し、題材への理解を深めながらよりよい生活の実現に向けて工夫を考えて表現する機会を増やす。引き続き、個に応じた適切な支援や声かけをしていく。
<p>6. 令和8年度(次学年)末に期待する生徒の姿</p> <p>既習事項を活用しながら主体的に取り組み、自身の考えを表現することができる生徒。</p>	

〈授業改善推進プラン 令和7年度第2学年 外国語科〉

1. 『わかる』から『できる』を体感する授業』を実現する上で解決すべき課題

令和7年度村学力調査結果から次のことが挙げられる。

- ・「書くこと」における、校内正答率が目標値よりも14.0%低く、問題の内容別評価と正答率では、「場面に応じて書く英作文」、「情報に基づいて書く英作文」、「春休みにしたことについての英作文」が他の問題に比べて正答率が低い。また、観点別評価の正答率では、知識・技能は目標値を6.9%上回っているが、思考・判断・表現では、目標値を下回っている。以上のことから、学んだことを活用したり、自身の意見や体験を英語で表現したりすることに課題が見られる。

2. 課題改善に向けた取組状況

(1) 令和5年度授業改善推進プラン記載内容

- ・「書くこと」に関する記載なし。

(2) 今年度実践している『わかる』から『できる』を体感する授業』を実現するための工夫等

- ・「書くこと」や「話すこと」の活動の際に、分からない単語や表現方法が出てきた際には、調べる手立てを伝え、調べたり活用したりする時間を設ける。
- ・自身の考えや体験を英語で表現する際には、事前に表に整理したり、箇条書きでアイデアを書き出したりする時間を設ける。

3. 課題の改善に向けた方策と検証方法

〈方策〉

- ①教科書の各ユニット末についている表現活動を実践し、学んだことを活用する時間を設ける。
- ②「書くこと」、「話すこと」を行った後には良かった点、次に生かせるアドバイスを指導する。

〈検証方法〉

- ①ノート、ワークシートの回収
- ②各ユニットでの生徒の取り組み方、様子の違いを評価。

4. 検証結果(成果と課題)

〈成果〉

- ①表や箇条書きを用いて整理しながら表現する事で、学んだことを生かして自己表現ができるようになった。
- ②「書くこと」、「話すこと」を行った後にフィードバックをすることで、アウトプットに対する意欲を保つことができた。

〈課題〉

- ・英語を書く際に文法はあっているが、単語のスペルミスが見られる。

5. 令和8年度(次学年)の学習指導において特に留意すべき事項

- ・継続して書く活動を行い、1度の授業で扱う新出語彙を絞り、定着させやすくする。

6. 令和8年度(次学年)末に期待する生徒の姿

聞くこと、読むこと、話すこと[やり取り]、話すこと[発表]、書くことの五つの領域において、学んだことを積極的に活用し、自身の意見や場面の描写を英語で表すことができる生徒。